

## 平成20年度 児童生徒の「活用力」向上への取組

## 1. 「全国学力・学習状況調査」「県基礎学力調査」の結果分析（H19より）

## 【全国（6年国語・算数）】

- ・ 全てにおいて、県・国を上回っているが、上位層と中位層と下位層にはっきり分かれている。
- ・ 国語では、「書く」ことが特に良好であった。しかし、記述式の問題での無解答率が県や国を上回っているという問題があり、意欲や粘り強さが必要である。さらに、「言語事項」、特に「漢字を書く」ことが、やや弱い。
- ・ 算数Aでは、「数と計算」の領域で県・国を下回っていた。ドリル学習の継続が必要である。「量と測定」の領域では知識として理解しているが、応用力・活用力の弱さがはっきりした。

## 【石川県（6年社会・理科）】

- ・ 社会も理科も、通過率はほぼ県と同じであった。
- ・ 社会では、「知識理解」で、県をやや下回っていた。基本となる語句を確認する必要がある。
- ・ 理科の「考え方」や「表現処理」で、県を下回っていたので、実験や観察の扱い方を検討する必要がある。

## 2. 各教科に関する指導改善のポイント

国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「言語事項」の定着に向けた指導の工夫</li> <li>・ 「話す・聞く」「読む」など、他の学習の基礎となる力を向上させるための指導の推進</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「四則計算」の習熟に向けた指導の充実</li> <li>・ 「文章題」の指導の充実</li> <li>・ 実生活に結びついた「応用力」や「活用力」の育成に向けた指導の充実</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「知識」として大切な語句の指導の充実</li> <li>・ 授業の中で、意識的に地図を利用させる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験・観察の中で、「科学的な思考力」を伸ばす指導の工夫</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習意欲を喚起する指導の工夫</li> <li>・ 国語の「言語事項」や算数の「四則計算」などの習熟をめざすような、家庭学習の内容の工夫</li> </ul>

## 3. 児童の実態、学習状況の把握、めざす児童像・つきたい力の明確化

～ 一人一人の「活用力」向上をめざして ～

- (1) 思考力を柱として、考える力を習得させる。
- (2) 興味・関心をもち、自ら考え追求したくなるような課題を設定する。
- (3) 考える力を単元レベルで考えていく。
- (4) 応用力の問題を解けるようにする。

## 4. 研究計画・取組内容

- (1) 全児童の学習状況についての実態把握  
(発表意欲・話す力・書く力・聴く力・視写する力・応用力等について、各学期、中間と学期末の2回評価をする。児童一人一人の変容、クラス全体としての伸びをデータから分析し、指導法に生かす。)
- (2) 低中高学年の発達段階に応じた「めざす子どもの姿」を明確にし、「活用力」についての共通理解を図る。
- (3) 研究全体構想、活用力の向上を図るための方策について協議と授業実践。
- (4) 国・県・町基礎学力調査結果の分析・考察  
(基礎・基本の定着状況、応用力についての結果を把握し、各教科における理解や定着が不十分な領域や学習内容の指導法を工夫、改善する。)

## 【基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着・向上】

- ・ 習熟度別の少人数指導やT・T指導を取り入れ、児童の実態に応じたきめ細かな児童の充実に取り組む。
- ・ 朝自習の時間を使い、計算や漢字のドリル学習を計画的に実施する。
- ・ 校内研究で、児童の意欲を高めるための課題や支援、評価を考えていく。
- ・ 放課後のパワーアップタイムを活用して個別指導を充実していく。

## 【知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成・向上】

- ・ 授業の中で、実生活と結びついた課題を工夫したり、学習したことを実生活の中で活用するような学習場面を設定したりする。
- ・ 思考の流れを文章や図、絵を使って表現する学習活動を取り入れる。そのためのワークシートなどを工夫する。

## 【家庭における学習習慣や生活習慣の改善（家庭・地域との連携）】

- ・ 10分×学年を家庭学習の目標時間とし、学校全体で共通理解しながら、意図的・計画的な宿題を出す。児童や家庭にも伝える。
- ・ 家庭における学習や生活に関する、保護者対象・児童対象のアンケートを実施し、実態把握に努める。
- ・ 生活習慣の形成や家庭学習の必要性などを、学校・学年だよりを利用して保護者に訴える。